

名古屋地学会第 310 回例会報告

津村善博

日時： 2015 年 10 月 24 日 (土) 午後 1 時～午後 4 時ごろ

場所： ①名張市百々 百々川河床

②伊賀市高尾 床並川河床

参加者： 4 名

内容： ①百々川河床に分布するテフラの観察

②床並川河床に見られる甌穴の観察

概要：

午後 1 時に青蓮寺ダム管理所付近に集合して、各人の車で最初の観察ポイントへ移動した。名張市百々集落の南方の百々川には、室生火砕流堆積物の溶結凝灰岩とテフラが分布している。その近傍には領家変成岩類の片麻岩も分布している。

このテフラの露頭は小規模で、山下 透他 (2007) によれば、黒色ガラス質の溶結凝灰岩の下位に層厚 15 cm の軽石質降下テフラ、さらにその下に均質で無層理の層厚 15 cm の白色細粒降下テフラ層が観察される。

次に 2 つ目の観察ポイントの伊賀市高尾床並へ移動した。集落付近を流れる床並川の上流域に大きな甌穴が 2 つ見られる。この 2 つの大きさは次の通りである。直径 1.5 m、深さ 4.0 m のものと、直径 3.0 m、深さ 1.2 m である。現地では、前者を「雄井戸 (おいど)」、後者を「雌井戸 (めいど)」と呼んでいる。この甌穴群は「逆柳の甌穴」として三重県の天然記念物に指定されている。これら 2 つの甌穴は室生火砕流堆積物中にできたものである。

文献：

山下 透・檀原 徹・岩野英樹・星 博幸・川上 裕・角井朝昭・新正 裕尚・和田稷隆 (2007) 紀伊半島北部の室生火砕流堆積物と周辺に分布する凝灰岩の対比およびそれらの給源：軽鉱物屈折率を用いたモード分析によるアプローチ。地質雑, 113 (7), 340–352.



左：百々川での調査，中：百々川河床の降下テフラ，右：逆柳の甌穴 (2008 年甌穴調査時撮影)